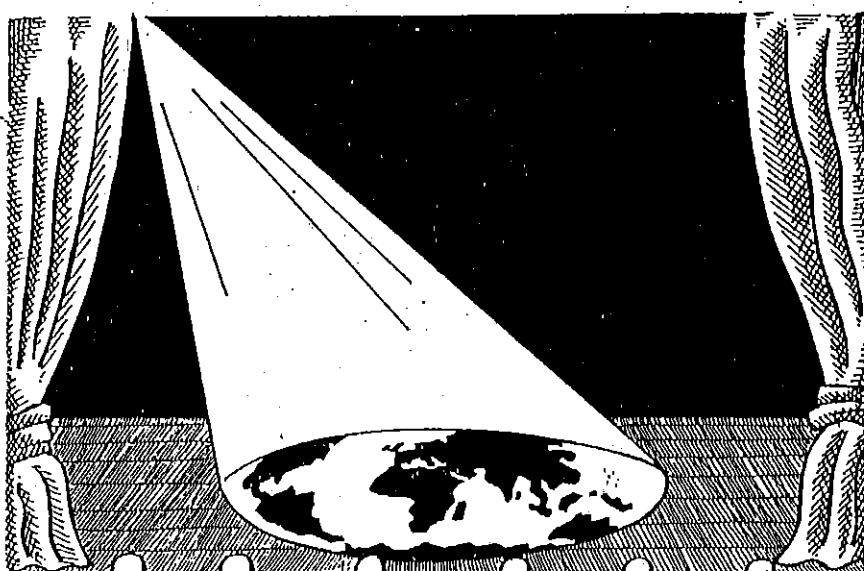


環境教育研修プログラム(1992.6.27-28)  
グローバル・セミナー  
実践事例10選

# Getting In On The Act



国際理解教育・資料情報センター (ERIC)  
1992年12月1日

事例 1 :

## 自己紹介ゲーム

### a'. カクテルパーティー

#### ねらい

課題について、各自の知識や見方・考え方を他の人と共有する。

#### 準備するもの

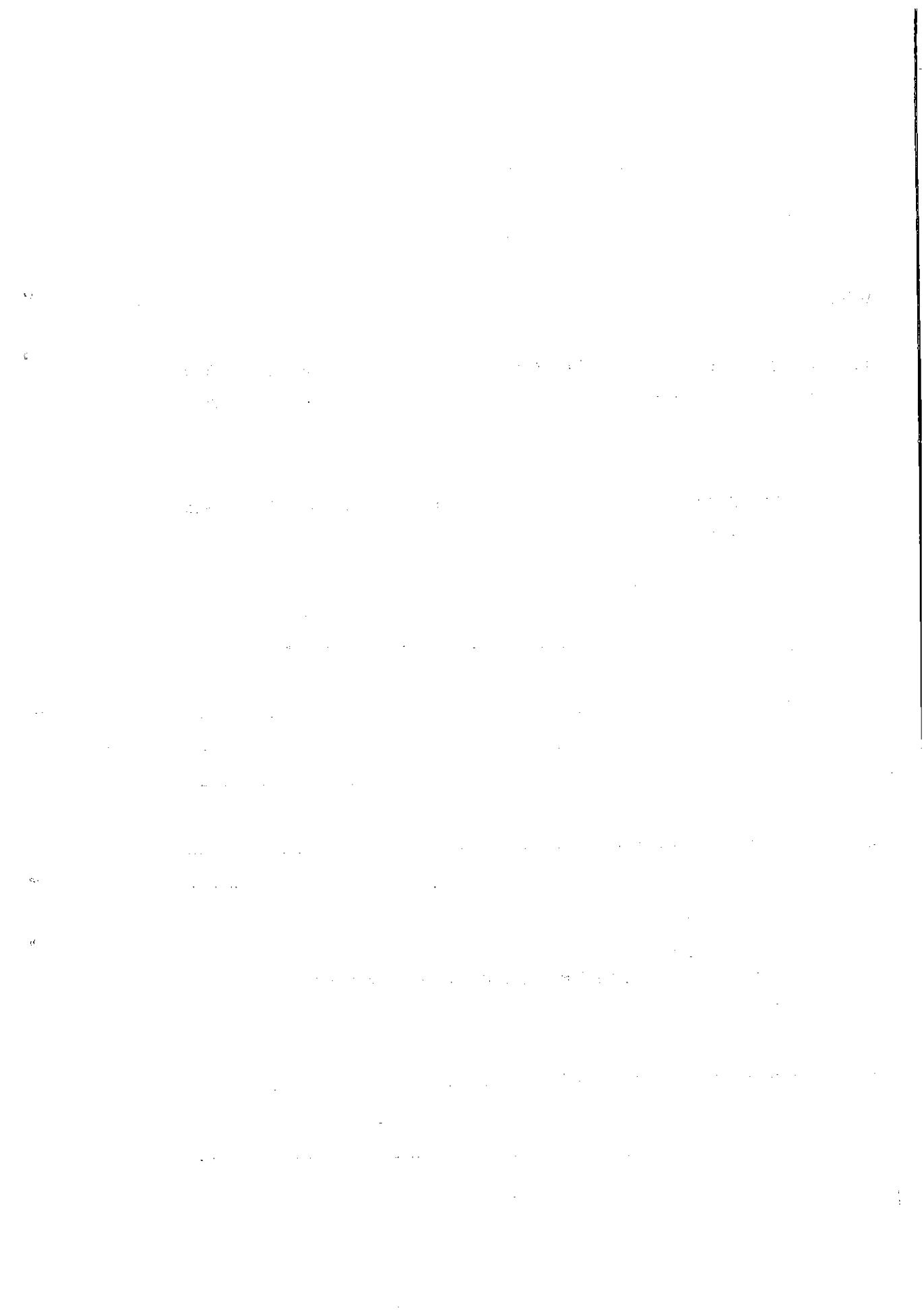
プリント（人数分）、筆記用具

#### 展開：

- 1 パートナーを見つける。
- 2 それぞれのペアがパートナーと向い合う形で、全員が2重の円になるようにして立つ。外円の人が内側を向き、内円の人が外側を向く。
- 3 各自にプリント「カクテルパーティー」を配る。
- 4 質問1について自分の考えをまとめて空欄に記入する。パートナーと互いの考えについて話し合う。2分間。
- 5 (2分後) 外側の人は左側に一歩ずれてパートナーを替える。
- 6 質問2について4と5を繰り返す。
- 7 すべての質問に答え終わるまで、4と5を繰り返す。慣れたら時間を短縮してもよい。
- 8 活動をふりかえる(話し合いはできるだけ短く)。
- 9 質問5に関しては、回答をカードに書いてもらいドアに貼っておく(出入りするときに、各自が見られるように)。

#### まとめの例：

どうして、カクテルパーティーと呼ぶのかわかったかな？ 答え：動きながら順番に相手を替えて、いろいろな人と話し合いや意見交換の機会がもてるから。何か感想がありますか？



## b. 知り合いになろう

### ねらい

初対面の緊張をほぐしながら、表面的な自己紹介に終わらない、1対1の出会いのきっかけをつくる。意見を言い合ったり、体を動かしたりする活動に入る前の導入としてよい。

### 準備するもの

プリント（人数分）、筆記用具

### 展開：

各自がプリント「質問シート」を片手に、会場に集まつた初対面の人々とひとりずつ出会い、互いに自己紹介する。次に、プリントの質問に関して話し合い、空欄を埋める（1つの質問に対して一人）。

## プリント「質問シート」

こんにちは。わたしは、〇〇〇です。

あなたの住んでいる地域のことについて聞かせて下さい。

答え

相手の名まえ

- 1 あなたの住んでいる地域には  
なにか目印になる物がありますか？ \_\_\_\_\_
- 2 あなたの住んでいる地域には  
何か野生動物がいますか？ \_\_\_\_\_
- 3 あなたの住んでいる地域の川には  
どんな生き物がいますか？ \_\_\_\_\_
- 4 あなたの住んでいる地域であなたが  
一番不快に思っているものは？ \_\_\_\_\_
- 5 あなたの住んでいる地域には  
どんな環境問題がありますか？ \_\_\_\_\_
- 6 あなたの住んでいる地域には  
どんな史跡がありますか？ \_\_\_\_\_
- 7 あなたの住んでいる地域には  
見晴しの良い場所がありますか？ \_\_\_\_\_
- 8 あなたの住んでいる地域には  
最近大きな災害がありましたか？ \_\_\_\_\_
- 9 あなたの住んでいる地域には  
おいしい水がわいていますか？ \_\_\_\_\_
- 10 あなたの住んでいる地域にはいつまで  
も残しておきたい場所がありますか？ \_\_\_\_\_

## C. E C ゲーム

### ねらい

交流を深めながら自分あるいは他の人が、どれほど理論を実行に移しているかを調べる。他の人がどんな活動をしているか知る機会をつくる。

### 準備するもの

プリント（人数分）、筆記用具

### 展開：

1 全員にプリント「E C ゲーム」を配る。

2 ゲームのやりかたを説明する。

「プリントの質問に『はい』と答えられる人を見つけ、その人の名前と答えを表の該当する番号の空欄に記入してもらいます。五目並べの要領で、縦、横、斜め、いずれかの方向で4つのコマがうまったら、「E C」と大きな声で言ってください」

3 ゲーム開始。

4 活動をありかえる。

- ・どんな気持ちがしたか

- ・E Cは英語で「Environmental Citizens」の略。

- ・環境教育の目的は、よい「Environmental citizens」を育てるこ。

### \* ジーン・フィエン氏のコメント：

大半の人が、「E C」と言えたようだ。3週間の日本滞在中に、設問B「環境庁長官の名前を知っている人」が一番むずかしい質問だとわかった。正しい答えを知っている人はほとんどいなかった。オーストラリアの場合は、環境庁長官にあたる人物は、内閣で唯一の女性。すなわち、この役職があまり重要だとは見られないことを示している。このほか、設問E、Kもむずかしかったようだ。

このゲームでは、次の「3 A」に気づくことができる。

Awareness 意識 と知識

Attitudes 態度 と個人のライフスタイルに関する決断

Action 行動 世界をよりよい場所にするための地域社会と地球社会における行動

## プリント「E C ゲーム」

次のような人を見つめましょう。

- A. ここ 1 カ月間のうち、国立公園を訪れた人。どの公園ですか？
- B. 環境庁長官の名前を知っている人。その名前は？
- C. 環境保護団体のメンバーである人。どのグループですか？
- D. 環境保護団体のボランティアをやっている人。どのグループですか？
- E. 1987 年度の国連の環境と開発についてのレポートのタイトルを知っている人。タイトルは？
- F. 環境保護の集会や行進に参加したことがある人。いつでしたか？
- G. 通勤や通学の手段として、公共交通機関自転車を使っている人、または歩いている人。いつからですか？
- H. エアコンをなるべく使わないようにしている人。なぜですか？
- I. 自分の家や庭ではスプレーや殺虫剤などの化学薬品をなるべく使わないようにしている人。なぜですか？
- J. 紙、空き缶、びんのうち 2 つをリサイクルしている人。どの 2 つですか？
- K. 環境問題について新聞や雑誌に投稿した人。何の問題についてですか？
- L. 地域の環境問題について政治家に手紙を書いた人。何の問題についてですか？
- M. 自分に直接影響がある地域の環境問題を指摘できる人。どの問題ですか？
- N. 自宅で省エネルギーを実践している人。どうやって？
- O. リフレッシュするために行くお気に入りの環境はありますか？どこですか？
- P. 自分に直接影響する地球規模の環境問題を指摘できる人。どの問題ですか？

A. 名前： どの公園？	B. 名前： 名前は？	C. 名前： どのグループ？	D. 名前： どのグループ？
E. 名前： タイトルは？	F. 名前： いつ？	G. 名前： いつから？	H. 名前： なぜ？
I. 名前： なぜ？	J. 名前： どの 2 つ？	K. 名前： 何の問題？	L. 名前： 何の問題？
M. 名前： どの問題？	N. 名前： どの問題？	O. 名前： どこ？	P. 名前： どの問題？

## d. わたしはだれでしょう？

### ねらい

- ・環境に対する意識を高める。
- ・表現力を伸ばす。

### 準備するもの

小さな紙（約10×13センチ、人数分）

### 展開：

- 1 各自に小さな紙を1枚ずつ配る。
- 2 各自分で、環境に関する題材を1つ決め、その題材を説明する形容詞を10個選んで配られた紙に書く。（例：みみずー長い、細い、にゅるにゅる…）
- 3 書き終わったらその紙をセロテープで自分の胸に張り付ける。
- 4 「全員席を離れて、ペアを見つけて自己紹介をし、相手の胸の紙に書いてある形容詞が何に関係があるのかをお互いに当ててください」
- 5 10～15分間続ける。
- 6 全員が席にもどる。

各自に、1)なぜこのワークショップに参加したか、2)このワークショップでの自分自身のゴールは何か、を短文で紙に書いてもらう。

参考文献：『P L T - 木と学ぼう』、22ページ「おしゃべりラベル」

事例 2 :

## 生物どうしのつながり

### ねらい

生物の相互依存関係について理解を深める。

### 準備するもの

模造紙、小さい紙、クレヨン、マーカー、セロテープ、毛糸など

展開 :

- 1 4～5人のグループに分かれる。各グループに1枚ずつ模造紙を配る。
- 2 「日本の環境に関するアイディアを出し合って、そのうち1つを選んでその正面から見た絵を模造紙に書いてください。ただし、植物以外の生物は絵の中に書かないでください」（約15分）
- 3 各グループの絵を壁に貼る。  
「全部の絵をつないで壁に貼って、日本の環境のパノラマを作りましょう。お互い隣の絵とうまくつながるように考えてください」
- 4 各自に小さな紙を1枚ずつ配る。  
「1人ひとり紙に生物の絵を書いてください。なるべく具体的に書いてください。（例えば、何の動物か、人間ならばどんな職業のいくつぐらいの人か）紙の裏には、その絵のものが生きていくために、何を環境から得ているか、また環境にどんな影響を与えているかを書いてください。書き終わったらその絵をパノラマの上のその生物が生活するのに最も良い環境に貼ってください」
- 5 全員が貼り終わったら、いくつかの生物を選んで、それを貼った人に、環境から「与えられているもの」と「与えているもの」を言ってもらう。
- 6 「様々な動植物が貼られていますが、互いの関係がはっきりしませんね。今から、お互いの関係に焦点を当てて考えていきます」  
各自、自分の絵を取って胸に貼り席のところに立ってください。そして他の人の絵を見回して見てください」
- 7 「ここにいるすべての生物が共通に必要とするものは何ですか」  
答えの例：「食べ物」→ 「植物の場合は？」 答え「水」
- 8 「今度は、お互いの命のつながりを見てみましょう」  
(毛糸を使って)  
「まず植物から始めます」  
立っている人の中から植物の絵を胸につけていたる人を1人選んで、「この植物に関係ある生物をさがしてください」  
例：ももんがが選ばれる。  
「その理由は？」  
「この木に留るから」

「それではこの毛糸で2つをつなぎましょう」

「木」を胸につけた参加者が毛糸の端をもち、「ももんが」を胸に貼った参加者の手に毛糸の玉を渡して両者をつなぐ。

「ももんがが関係あるのは？」

「木」

「なぜ？」

「住む場所、食べものなどになるから」

「ももんが」の参加者から次の「木」の参加者に毛糸玉を渡す。こうして、順番に参加者が毛糸でつながっていく。全員がつながったところで、

「このように、違う種類の生物でもなんらかのつながりがあるものなのです。

もし、人間がこの環境に悪い影響を与えたたらどうでしょう？」

1人選んで、

「あなたが木を切り倒します。毛糸を引っ張って振動を加えることによって影響を与えてください。他の人は毛糸をぴんと張っていてください」

人間から振動を加えられた「木」に向かって、

「何か感じたらその振動を他に伝えてください」

振動が順々に伝えられ、毛糸のつながり全体が揺れ始める。

「このように、生態系の離れたところで何かが起きてもそれがゆくゆくは全体に影響を与えることになるのです。もし糸が切れたらどうなりますか？食べものがないとか、住むところがないとか…。まず、絶滅の危機にさらされ、そのうちに絶滅してしまうこともあります」

参考文献：『P.L.T - 木と学ぼう』、106ページ「生き物どうしのつながり」

### 事例 3 :

## 「持続可能な開発」と価値観

### ねらい

- ・「持続可能な開発」の意味について考える。
- ・「持続可能な開発」の概念の基盤となる価値観を明確にする。
- ・「持続可能な開発」の定義を自分のことばで考える。

### 準備するもの

プリント3種類（「インフォメーションシート1」「2」「ワークシート」を各人数分）、定義カード（各グループに1セット）

時間：30分

### 展開：

- 1 課題について簡単に説明する。「インフォメーションシート1」と「2」を読んで「持続可能な開発」と「開発」の概念について全員が理解できるようにする。
- 2 ワークシートに書かれた価値観についても、全員が理解できるように、話し合っておいたほうがよいかもしない。
- 3 3～4人のグループに分かれる。
- 4 「定義カード」をテーブルの上に裏返しに並べる。
- 5 順番を決めて、ひとり1枚カードをとり、カードに書かれたことをグループの他の人に聞こえるように読む。それぞれのカードに書かれた文面に関して、「インフォメーションシート1」と「2」を使って、次の質問に話し合いを通して答える。
  - 1) この文を書いた人は、「持続可能」に関してどの説明を支持するだろう。
  - 2) この文を書いた人は、「開発」に関してどの説明を支持するだろう。
  - 3) この文には、矛盾する点がないか。
  - 4) この文を考えたのはだれか。（政治家、財界のメンバー、科学者、経済専門家、環境専門家？）
- 6 カードの3、6、10、13を再度、読み直す。それぞれの文をワークシート「価値観のものさし」で測ると、どこに位置づけられるかを考え、その位置にカードの番号を書き入れる（カードの番号によってペンの色を変える）。
- 7 共通点が見つかるか。  
これらのカードの文章の背後にあるのは、すべて異なる価値観だろうか。
- 8 「持続可能な開発」は、何を意味するか？  
「持続可能な開発」は、主にどんな概念を含んでいるか考えて、自分のことばで定義してみなさい（一つひとつの重要な概念がわかるように具体的に考える）。
- 9 活動をふりかえってまとめる。

「持続可能な開発」という概念を支える価値観や理念について話し合う。生徒一人ひとりが考えた概念を全体で話し合い、それぞれどんな違いがあるかを話し合う。

応用：

- 1 「インフォメーションシート1」（以下「1」と「2」）を読む。
- 2 各グループで「1」と「2」について討議する。
- 3 「1」から、「持続可能」の定義として最適な文を選ぶ。
- 4 「2」から、「開発」の定義として最適な文を選ぶ。
- 5 3と4で選んだ文を合わせて、持続可能な開発を定義する（3行以内）。
- 6 以下の基準で各自の定義を分析する。  
「持続可能な経済成長」か？ それとも「持続可能な開発」か？

- ①自然環境の保全を重視するかどうか
- ②経済の「ゼロ成長」を是認するかどうか
- ③後世に問題を残さないことを前提とするかどうか
- ④貧富の格差を解消しようとしているかどうか

上の項目にすべてあてはまる必要はない。しかし、これらと全く相反するような場合は、「持続可能な経済成長」を志向する定義である可能性が高い。

\*ジョン・フィエン氏のコメント：

私は、持続可能な開発とは、適切なニーズを満たすために自然の資源を利用する取り組みであると定義する。また、次世代の適切なニーズを満たすのに充分な資源を残すことでもある。

## イノベーションシート1 「持続可能な開発」とは何か

### 1 経済的持続性があること

開発は、経済的な無駄がなく（経済的効率性）、同じ時代の人々も、未来の人々も、みな同じように恩恵を受けるものでなくてはなりません。「経済的効率性」とは、何かを行う過程やそれに投入された資源から、最大の成果が得られることをいいます。

### 2 持続的生産性があること

開発は、農業生産が、一定のレベルで確保されること、あるいは常に向上を続けることを妨げるものであってはなりません。すなわち、下の条件が必要です。

- ・ 土壌消失の防止
- ・ 地中の生命の生息密度の保持
- ・ 肥沃な土壌と無機物の維持
- ・ 地質の保全
- ・ 有害化学物質生成の阻止
- ・ 肉食動物（ディンゴなど）、害虫・害獣（昆虫や野生のブタなど）、競争相手（雑草、カンガルーなど）の数を一定に保つこと

### 3 社会的持続性があること

開発は、人々が自分の生活を自分で左右できる範囲を拡げるようなものでなければなりません。つまり、土地を占有する人が簡単に追い出されたりすることなく、そのため、長期的視点で賢い土地利用をしようという意欲の湧きやすい、不公平のない土地管理の制度がなくてはなりません。

### 4 文化的持続性があること

開発は、それが人々の価値判断にどのような影響を及ぼすかを考慮した上でのものでなくてはなりません。

### 5 生態学的持続性があること

開発は、生態系、生物の多様性、生物資源などを維持することを考慮に入れて行わなくてはなりません。そのためには、他の生物がよい状態で存続することが人間にとっても重要であるということを、社会全体が認識する必要があります。

## イノベーションシート 2 · · · 開発とは何か

「開発」という言葉は、普通は、改善をもたらす変化の過程という意味です。それでは、私たちはいったい何を改善しようとしているのでしょうか。以下をヒントに考えてみてください。

- ・開発とは、持てるかぎりのすべての資源を最大限に活用することである。
- ・開発は、その環境に存在する生態系がバランスを失うものであってはならない。環境に何の影響も与えない工業化はありえない。
- ・一人ひとりが充実して生きるために、すべての人に仕事があるということ不可欠条件である。それには、「適正技術」の利用が最良の方法だろう。  
適正技術とは、大規模な工業化によくあるような労働者の削減をしないでむかように、地域の伝統的な技術を活かしながら、現代のテクノロジーを必要に応じてとりいれて生産性を伸ばす方法である。
- ・開発は、関係者全員が計画に関わるものでなくてはならない。外部から押し付けるのではなく、影響を受ける人々自身のアイデアですすめられるものでなくてはならない。
- ・自分が働いている土地を実際に所有することが重要である。
- ・経済の開発と社会の開発は、切り離すことができない。経済成長によって、社会をよくするための財政的手段が得られる。
- ・すべての人が、平等に富を得ること。
- ・すべての人に平等に機会が与えられること。一つの階層が残りの人々を擡取するがあつてはならない。
- ・開発とは、経済と社会の工業化を意味する。開発の根本は経済成長である。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT STATEMENT CARDS

「持続可能な開発」定義カード

1 持続可能な開発とは、生活圏（バイオスフィア）における自然の機能を妨げるものであってはならない。	6 持続可能な開発は、人類が何世代にも渡って継続的に維持できる経済的な福利が公平に分配される社会を実現することが主な目標である。
2 持続可能な開発とは、それが環境や天然資源にどんな影響を及ぼすかを考慮したものでなくてはならない。	7 持続可能な開発は、人間の必要を満たし生活の質を向上させることを継続的にすることを可能にするであろう。
3 持続可能な活動とは、簡単に定義すれば、この先も継続可能だということである。それには、少なくとも3つの面（天然資源をむやみに枯渇させない、自然のシステムを大きく変えるような廃棄物をつくりださない、社会的な安定に悪影響をきたさない）が必要である。	8 持続可能な社会とは、その環境の範囲内で生活する社会である。が「成長率ゼロ」社会というわけではなく、むしろ、成長の限界を認識し、成長の手段として従来と異なる道を模索する社会であると言える。
4 持続可能な開発とは、現在の必要を賄いながらも、それによって未来の人々が必要を満たすことができないという事態を引き起こさないものでなくてはならない。	9 政府も、持続可能な経済開発という考え方を支持している。もし環境が大切に保護されれば、安定した繁栄が世界全体にもたらされること也可能である。
5 「持続性」の根幹をなす概念は、現在の決定が、未来の生活水準を維持、あるいは改善する可能性を妨げるものであってはならないということである。	10 開発計画の目的とは人間の欲望をより多く満たすことである。そうした計画が持続可能であるためには、未来の人々の健康や生産性を脅かすものであってはならない。
	11 持続可能な開発とは、主に、環境、社会、経済という3つの基盤を破壊することなく人間の必要を満たし、人が生存し続けられるような社会を創造することである。

12

開発を持続させるためには、社会や生態系と同時に、経済の側面として有機物、及び無機物資源の残存状況や、新たな対策を講じた場合の短期及び長期的利点と欠点などについても考慮しなくてはならない。

13

持続可能な開発とは、一方に生産力増大、経済成長、経済発展と、他方に環境保全という2つの異なる目的を結びつけるものである。

14

我々の一般的な解釈では、持続可能な開発とは生活水準が現在より低下しないことを意味する。

15

「持続可能」という言葉は、ふつう、なんらかの圧迫のもとでも活動を継続できる能力を意味する。従って、農業における持続性とは、どんなに苛酷な条件でも、畠、農園、国が生産性を維持できる能力のことを意味する。

## タクト・・・価値観のものさし

自然環境保護を  
支持する

需要に応じて自然  
開発を推進する

経済成長ゼロ  
を支持する

高度経済成長の支持

当世代において、  
平等に自然の恩  
恵を受けられる  
ことを支持する

当世代において、  
平等に自然の恩恵を  
恩恵を受けられること  
を支持しない

子孫が自然の恩恵を  
受けられることを支  
持する（〔持続  
性〕を長い目で見る）

子孫が自然の恩恵を  
ことを支持しない  
(〔持続性〕を近視眼  
的に捉える)

事例 4 :

## 価値観のトライアングル

### ねらい

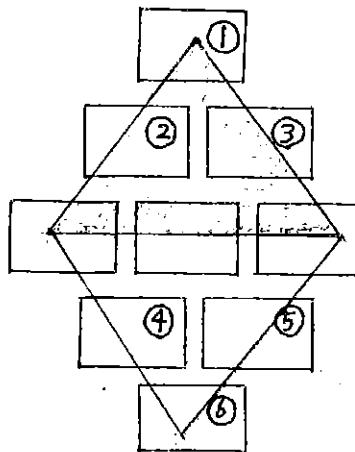
現実の世界に存在する環境問題を引き起こしている経済体制をつくっているのは、どんな要因が根源となっているかを考察する。

### 準備するもの

カード（各グループに1セット）

### 展開：

- 1 「権力をもった人たちと自分たちの価値観の違いを明確に認識する必要があります」
- 2 2~3人一組のグループに分かれる。各グループに、9枚のカードの入った封筒を一枚ずつ配る。
- 3 各グループで、9つの価値観について話し合い、その後、下のようにカードを並べる。  
「持続不可能な開発」を生み出す価値観を上の①②③に、「持続可能な開発」を生み出す価値観のカードを下の④⑤⑥におく。
- 4 全体で、各グループの結果を発表し合う。
- 5 「環境教育の目的とは、まさに、上と下の2つの価値観のトライアングルを逆転させることです。自然のシステム（自然環境）と社会のシステム（人間社会）のギャップをうめる橋、すなわち、環境教育がしっかりとていれば、上の価値観の逆転も不可能ではありません」



## 「価値観のトライアングル」カード

### 環境にに対する姿勢

#### 万物の盡長

私は「滅びゆく地球」といった見方には賛成できない。人間は、今まで、地球がどんな危機に遭遇した場合でも、それを乗り越える術を見つけてきたではないか。だからこそ、人類が万物の盡長なのだ。

#### 私たちの地球

環境保護運動は、あつうの人々が直接参加できる数少ない領域である。無神経な政治家や官僚たちに任せておくのではなく、自分たちで自然環境を守つていかなければならない。地球は私たち一人ひとりのものであり、私たち自身に責任があることを自覚しなくてはならない。

#### その日その日を生き延びる

地球の温暖化、オゾン層の破壊、自然保護等について「豊かな北側」がいろいろ騒ぎ立てるのは大いに結構だが、「貧しい南側」では地球がどうなるかというようなことに構ってはいられない。その日をどう生き延びるかが最大の関心事である。

#### 自然に任せると

環境問題の深刻さに押しつぶされてはいけない。私たち人間は環境に大きなダメージを与えた。しかし自然界は驚くべき再生力を持っている。私たちが過度の自然破壊を起こさない限り、あとは自然に任せていればいい。

#### 緑の革命

資本主義や国家社会主義の論理だけ動く大量消費社会が続く限り、環境の危機も常に存在するだろう。私たちが必要としているのは、未来への展望や経済的・社会的活動のありかたを根本的に変えることである。私たちは、個人レベルでも社会全体でも「深緑の革命」を行う以外に充分な解決法はない

#### 男性的価値観

環境問題のほとんどの根幹には、自然を支配し、管理するという考え方がある。これは、男性的価値観（男性理念が支配的な世界では驚くにあたらない長期的な視野で効果的な解決策を生み出すには、人間と自然界との関係のあり方を根本から見直し、女性的価値観（女性理念）——育てる、調和する、共存する、など——を探り入れる必要がある。

#### 緑の消費者

「緑の消費者」が時代をリードしつつある。私たちは、製品が環境に及ぼす影響、動物実験、第三世界に接する意味などに関する情報がもっと必要だ自分が買うものの背景が知りたいのである。消費者として、私たちは、自分の足と財布（他の場所で買う、全く買わないなど）で選択することを通して変化を起こす力を持っている。

#### 権利

「環境」というのは先進国の概念である。それぞれの社会や文化は、固有の宗教、倫理や価値観、固有の社会的、経済的必要性に応じて、自然環境を利用する権利を持っている。どんなに富裕で力を持つ集団であっても、環境をどう利用するかを他の集団に押しつけるべきではない。

#### 簡単な答はない

私たちは、環境問題には簡単な答はないということを理解する必要がある。相互依存の進んだ世界システムの中でどんな解決策でも、必ず、好影響を受ける人と悪影響を受ける人が生じる。これは選択の問題であり、自分たちが何を大切にするかということに大きく左右される、難しい選択である。

事例 5 :

ウーリー・ウェブ

ねらい

- ・環境と開発の問題は、複雑に絡み合っていることを理解する。
- ・地球は複雑で壊れやすいことを概念として理解すると同時に、体験を通じて感じる。
- ・参加を通して能動的に学ぶ。

準備するもの

プリント（グループに1枚）、毛糸玉(10個、すべて違う色)

展開：

- 1 10のグループに分かれる
- 2 <グループで>各グループにプリントを配る。課題を説明する。  
「プリントの表には10の環境問題が書いてあります。それぞれの問題が他の問題とどのようにつながりをもっているかを考えます。たとえば、『貧困』の問題が『食糧の不足』とつながりがある場合には、『貧困』の右の空欄に『食糧の不足』と書き込みます。複数の問題とつながりがある場合は、つながりのある問題をすべて書き込みます」
- 3 15分間、各グループで話し合いながらプリントを完成させる。
- 4 <全体で>いくつかのグループに「どんな問題が他のどんな問題とつながりがあることがわかったか」を言ってもらう。
- 5 各グループに10の環境問題のうち1つずつを割り当てる。
- 6 グループごとにかたまって、全体として1つの大きな輪になってすわる。
- 7 各グループに毛糸玉を1つずつ配る（毛糸の色はすべて異なる）。各グループで代表を2人選び、片方の人（a）の腰に毛糸の端を結びつける。もうひとり（a'）が、交渉役となって毛糸玉をもって、自分たちが担当する環境問題とつながりのある他の環境問題を担当するグループへ行き、どんなつながりがあるかを説明、交渉しに行く。「確かにつながりがある」と合意が成り立った場合は、そのグループの1人（b）の腰に毛糸を巻きつけて、自分のグループに戻り、再び、aの腰に毛糸を巻きつける。各グループともこれを繰り返す。
- 8 交渉がすべて終了したら、そのままの状態で、毛糸の模様を考察する。

例：

- ・「大量消費」のAのところに毛糸が特に多く集まっている。→ 大量消費が原因となっている環境問題が多くあることがわかる。
  - ・全体の模様はとても複雑である。  
→ 環境問題は複数の原因から生まれていて解決が難しい。
- 9 毛糸をていねいにほどき、後片付けをする。  
→ 解決の難しさを体得できる。

環境と開発

つながりを見つけよう

グループ：

問題	つながり
貧困	
工場の使いすぎ	
人口の都市集中	
工業化のしきり	
熱帯雨林の破壊	
食糧の不足(飢餓)	
動植物の絶滅	
環境汚染・公害	
健康への悪影響	
大量消費	

## 事例 6 :

### マナミヤ

#### 解説

マナミヤは、西アフリカのハウザ語で「女性の農業従事者」という意味で、アフリカでの実例をもとにつくられたシミュレーション・ゲームである。実際のアフリカの農村における農民たちの役割を演じる。農繁期に「開発」計画が始まる。男女の役割やあり方について理解を含め、「開発」によってどんな影響が及ぶかを男女それぞれの立場から考察する。特に、「開発」には、女性が食物生産に重要な役割を果たしているという視点が落とされがちであり、その結果、女性の仕事がふえ、経済的自立が奪われることがわかる。

対象：16歳以上

時間：1時間半（ゲーム）、約30分（話し合い）

#### 展開：

- 1 全体を2つに分ける。ある村の2種類の農民で、一方が米作農民で、もう一方が雑穀農民を表わす（米作農民は男性で、雑穀農民は女性であるが、このことはゲーム中は伏せておく）。講師は、行政の開発担当者の役をする（参加者が開発問題について既によく知っている場合には、他の人にやってもらつてもよい）。
- 2 ゲームボードとカードをテーブルの上に置き、その周りに全員がすわるようにする。カードは表向きにして、ボードの片方の端にそれぞれ種類ごとに（米、食物、現金、労働青、労働緑）重ねて置く。指示カードを①が一番上にくるように番号順に表向き並べておく（耕地は後で配る）。
- 3 参加者にボードの周りに座ってもらう。ゲームについて次のように説明する。「今から皆さんにやってもらうゲームは、アフリカの農村生活の実例に基づいてつくられました。欧米型の開発計画が農村にどんな影響を及ぼすかが、単純な形でわかるようになっています」
- 4 参加者の中から開発担当者の役を選ぶ場合は、やりたい人の希望を募って1人を決め、役割を書いたプリントを渡す。誰もやりたい人がいない場合は、講師がやる。
- 5 2つのグループに分かれ、どちらもほぼ同人数で男女混合になるようにする。「それぞれ異なるタイプの農民グループです。片方は、米作農民で（米作農民の役割を書いた青色プリントを渡す）、もう片方が雑穀農民です（雑穀農民の役割を書いた緑色プリントを渡す）」  
耕地を表わすカードを渡す。米作農民には黒土の耕地を4つ分、雑穀農民には黒土の耕地を1つ分と赤土の耕地を1つ分。  
赤土の耕地が2つ分と灌漑した黒土の広い耕地が2つ分、開発担当者の手元に

残ることになる。

- 6 グループごとに離れて静かなところに移動し、役割を書いたプリントを5分間、読むように指示する。開発担当者も自分のプリントを読む。5分したら、もとの位置に戻って、次の文を読む。

「どんな村にも複雑な権力構造が存在し、土地や現金などの資源の利用にあたって、集団によって恩恵の受け方が異なります。米作農民は、肥沃な黒土の耕地の大半を管理しています。雑穀農民は、肥沃な黒土の耕地はほんのわずかで、大半は痩せた赤土の耕地を耕さなくてはなりません。どちらのグループも互いに協力し合って労働力や食物を分け合っていますが、現金はそれぞれ別に管理しています。（米作農民には現金の出入りがあり、ゆとりもあるが、設備投資などで高額の出費もある。雑穀農民は、米作農民に労働力を提供しなければならず不満がたまる。しかし、共同体全体としては、無理のない生活サイクルで、食糧も十分にあり、持続可能といえる）」

- 7 ゲームの仕方、ボードとカードの使い方について簡単に説明する。

「それぞれのグループで番号のついた指示カードを引きます（米作農民は青色カード、雑穀農民は緑色カード）。カードの指示に従ったり、資源カード（労働、食物、米、現金）を使ったりしながら、4つの農繁期を体験していきます。資源を使ったときには、ボードの指定された場所に資源カードにおきます。自分たちの行ったことが、ボードに記録されます。ゲーム中に使ったカードがどのように並んでいるか、自分たちが育てた穀物が、売られたり、貯蔵されたり、食用にされたりという動きがよくわかります。役割を説明したプリントにあるように、それぞれのグループで労働の役割が明確に分かれています。カードにもこのことが表われています。農繁期が2回終わったところで、開発担当者が村にやって来て、開発計画を導入します。残り2回の農繁期で、この開発プロジェクトが農民の生活にどんな影響を及ぼしたかがあらわれることになります。」

- 8 最後にゲームを始める前に、各グループで1人、会計係を希望で決め、ひいたカードの番号（収入）とそのうち使ったカード（支出）及び手元に残ったカード（残）を記録してもらう。会計係には、鉛筆1本、白紙1枚、バランスシートの見本1枚を渡しておく。

- 9 最初の農繁期の終わりの時点からゲームを始める。米作農民が青色カードの①をとり、カードに書いてあることを全員が聞こえるように読み上げる。終わったら裏返しにして別の山に重ねていく。次に、雑穀農民が緑色カード②を引き、前と同様にする。どちらのグループもそれぞれのカードがなくなるまで続ける（毎回、各グループが交替でしなければならないわけではない）。各グループでメンバーが交替でカードをとり読み上げるようにして、仲間外れが出ないようにする。

- 10 セットの中には、他に2種類のカードがはいっている。

白プリント（2枚）：誰かに読んでもらい、それについて、各グループで5分間の話し合いをする。

黄プリント（2枚）：村の寄り合いでの開発担当者が登場し、「肥沃な土地を

有効に活用して生産性を高める目的で灌漑用ダムを造る計画がある。耕地を提供してもらわなくてはならないので協力を頼む」という説明をする。

黄色カード44番の指示に従って、村の寄り合いを召集し、開発計画の影響について10~15分間話し合うが、直接影響を受けるとされる米作農家の意見だけが聽かれ、結局、開発は強行された…としてゲームを終える。全員がそれぞれの役割のままでは考える。

#### ○ゲームからわかること

雑穀農民は開発の結果、今まで以上の労働力を米作農民に提供しなければならなくなり、ゆとりがなくなる。米作農民は、設備投資を増やした結果、これまでどおりの労働力で仕事が進められる。その結果、生活にゆとりはできるが、米が大量に生産された結果、価格が下がり、在庫ができてしまう。

すなわち、雑穀農民は、収穫なし、食糧なし、労働力なし、借金するための担保とするものもない。米作農民は、自分自身は何とか貯えるが、雑穀農民を援助するゆとりはない。

その結果、持続的な生活を続けることは不可能となった。食糧を大量に生産することは、必ずしも良い結果をもたらさなかった。政府の手が加わったために、貧富の差が広がり、雑穀農民が飢えることとなつた。米作農民は、世界経済にありまわされることになった。

この時点では、2つの農民グループが実は、それぞれ男性、女性を表わしていたことを明伝える。このゲームに隠されていたテーマは、農家における男女の役割分担と女性への差別である。

開発プロジェクトによって、男性の一般的な役割である耕作・田植などは楽になり、経営が拡大されても必要な労働力が増えることもない。一方、耕地の維持や管理を担当する女性の労働は楽にならず、むしろ倍化する。つまり、土地も女性も搾取の対象となっているのである。

## 事例 7 :

### 貿易ゲーム

#### ねらい

ゲームを通じて、貿易がすでに強力な国に有利なように行われることを描き出し、参加者は、無力感など様々な感情を経験し、第3世界の国々やそこに住む人々に対して、より主体的に考えることができるようになる。

#### 準備するもの

はさみ4本、定規4つ、コンパス2つ、三角定規2つ、分度器2つ、わらべんし30枚、鉛筆12本、紙幣20万円分、6つの紙袋

#### ゲームのやり方（別資料参照）

時間：15～20分

#### 展開：

- 1 グループに分け、ゲームのやり方を説明する。
- 2 ゲーム開始
- 3 ゲーム終了後、グループ及び全体で話し合う。

#### 話し合いの例：

#### グループの感想：

A 「原料がなかつたので最初は苦労した。しかし、全体的にはよかつた」

B、C 「原料はあつても、道具がなかつたので悔しかつた。銀行は意地が悪い」

#### 進行役のコメント：

- ・高技術をもつ国（はさみ、定規などを全て独占していたA）が古くなつた旧式の技術（2つあるはさみの使いにくい方）を原料と交換することは現実に起つている。
- ・人口の多い国（B、Cは意図的に人数を多くしてあつた）は、全員が交渉に参加することが物理的に不可能で、結果として退屈してしまう人ができる。これは、第3世界で、多くの労働力が眠つてゐる現象とまったく同じである。人口の多い国では、働きたくても職がなく、また話し合いの難しいことが実感できたであろう。
- ・円形の製品は、作るのが難しく、紙の使用効率も悪いため、最初はどこの国も作ろうとしなかつたので、価格が銀行によってどんどんつり上げられた。後半になって、Bが円を作る技術を取得し、大量生産を始めた。が、急いだため、製品の仕上りはあまりよくない。国際価格の変動と、一つの技術を頼つて大量生産しないではいられない開発途上国の苛立ちを経験できたであろう。
- ・ゲーム後半になって、赤いシールをはつた製品は倍価格で買い取ると、銀行がAグループにのみ教えた。もともと赤いシールをもつていたBグループは、シールの価値を知らされていなかつたので、不適正価格でAに譲つてしまつた。

- このように資源の価値に関して無知であることも、途上国の弱点の1つである。
- ・B、Cグループは、自分たちの経済に有利になるような原料取引を行うことができるようペーパーカルテルを作ることもできたはずである。しかし、そうすることを禁ずる規則がなかったにも関わらず、実際には、お互いに競争し合い、Aグループにとって好都合な状況をつくっていった。これは、まさに、現在の世界情勢を反映している。
  - ・B、Cグループは、銀行にできるだけ高く買ってもらえるように、「一生懸命つくったんですから」と、同情を買おうとしていた。しかし、銀行の興味は、預金をしてくれるAグループにある。
  - ・机の上には、大量の紙屑が残っている。つまり、産業廃棄物である。未使用的きれいな紙は一枚も残っていない。Aグループの机の上には、B、Cグループの欲しがりそうな紙が無難作に丸められている。一方、B、Cは、Aより注意を払って資源を活用しているものの、やはり紙屑が少くはない。

#### まとめの例：

ここで考えるべきことは、できるだけ早く、できるだけ多くのものをつくろうとすると何が起きるかということである。国際的な取引・貿易が環境破壊の原因であることには気づきにくいもので、原因を問われると、身の回りのことだけで考えがちである。大切なことは、個人的な利害、行動よりも、視野を広げることである。

事例 8 :

## 女性と水

### ねらい

- ・1枚の写真から思い浮かぶ質問をもとに、広い視野から考えをまとめる。
- ・1枚の写真から関心がどんどん広がることを実感する

### 準備するもの

写真（女性と水に関する場面を撮った写真をグループに1枚）

### 展開：

- 1 3～4人のグループに分かれる。
- 2 各グループに1枚ずつ写真を配る。
- 3 写真をよくみて、思いついた質問ができるだけ多く書き出す。

写真：水汲みをしているアフリカ女性が畑のようなところに立っている写真  
例)

- ・水汲みはどれくらい大変か。1日に何回しなければならないのか。1人でやっているのか。
- ・シーズンによって仕事が変わるか
- ・この畑では、何をつくって何を収穫しているのか
- ・畑の利用目的は何か。畑は1人でやっているのか
- ・水はどこから汲んでくるのか
- ・何に使う水か。飲み水か、家畜のためか、畑のためか
- ・女性が水汲みをしている間、男性はどこで何をしているのか
- ・水汲みは、女性の仕事か
- ・作業の効率はよいか
- ・身につけているのは女性の一般的な服装といえるか
- ・何才ぐらいか。家族構成はどうか。
- ・この土地は畑をつくるのにふさわしいか

水汲みをしているアフリカの女性が畑のようなところに立っている写真

事例 9 :

いい環境ってどんなの？

ねらい

グループ内で話し合って順位を決めていくことで、それぞれの観点や価値観の違いに気づく。「違い」の存在や自分自身の価値観について発見していくことが、大切である。話し合って決定していくという過程を、結果以上に重視する。従って、回答がないので、様々なトピックに応用できる。

準備するもの

プリント（人数分）

展開：

- 1 5～6人のグループに分かれ、それぞれのグループに13枚1組の写真（白黒コピー）と1人1枚プリントを配る。「1週間休みをもらったらどこへいつてみたいか」という観点から、各自で順位をつけ、プリントの表に書き込む。
- 2 〈グループで〉各自のプリントをもとに順位を見せ合う。
- 3 〈グループで〉グループとしての順位を話し合いで決める。
- 4 〈全体で〉グループごとの結果を発表する。
- 5 〈各自で〉「ふりかえりシート」を記入する。

> 参加者の感想

3グループのうち、2つは以外とすんなりグループの意見がまとまったが、1つは結局決まらなかった。互いの意見を言い合う中で、性格が表われておもしろい。1つのことになかなり違う意見が出ると、改めて各人の観点の違いに気づくが、意見が衝突するとフラストレーションがたまることも少なくない。最後に、「ふりかえりシート」に記入することで、いくらかフラストレーションの解消に効果がある。

写真	私							グループ
A								
B								
C								
D								
E								
F								
G								
H								
I								
J								

### ふりかえりシート

今の実習を通じてのふりかえりを、次の文章を完成する形で行ってください。

- ◇私が書いたのは、
- ◇私ががっかりしたのは、
- ◇私がうれしかったのは、
- ◇私が気づいたのは、
- ◇私が学んだのは、
- ◇私にとって必要だとわかったことは、
- ◇その他に気づいたこと、考えたこと、書いておきたいことは、

## 事例 10：

### ひだまり丘陵の開発

#### ねらい

結論ではなくプロセスが大切。すなわち、結論を導いていく過程で、どれだけ深い議論ができるかを重視する。議論を深めるには、問題点をよく調べるということ同じくらい、場合によってはそれ以上に、自分の立場や価値観を踏まえた上で、相手の立場や価値観をも互いに認め合うということが大切となる。その練習として、ここでは、ロールプレイで活動をすすめる。

#### 展開：

1 「ひだまり丘にレジャー施設計画がもち上がる」という設定で、6グループに分かれて、ロールプレイで村会議を繰り広げる。各グループに次の6つの役割を割り当てる。講師が村長になる。

- ①マンションの住人（どちらかといふと反対派）②マンションの住人  
③（どちらかといふと賛成派）④開発業者⑤環境保護グループ⑥ひだまり村経済界⑦里山の地主

2 〈各グループ〉役割で主張したいこと、あるいは、他の役割に対して訊いてみたい質問などを話し合いでまとめておく。村会議を開く。各グループが意見を述べ、その後、討議する。できれば1回限りの授業で終わらず充分時間をとつて、会議中の論点を模造紙に書き出しておき、各グループで実際に調べて、後日、会議を再開して討議を続けるようにするとよい。

#### > 参加者の感想：

- ・本来の自分の立場や価値観とは違つて、やりにくと思った役割であつても、その立場になりきろうとグループで対策を練っているうちに、今まで気づかなかつた論点などが見えて、非常におもしろく、考えさせられた。
- ・各役割の利益ばかり考えていたのでは、全体がまとまらないということが身にしみた。
- ・具体策がなかなか出ず、非現実的な理想論が多かつた。

#### \* 飯沼慶一氏の感想

まず価値観を明確にすることが必要。つまり、様々な価値観を知ると同時に、自分自身の価値観に気づくということである。行動にうつすにあたつても、互いに認め合うことが大切である。